家文遺之物
きさらぎ

いぢはとの乃はは
よりとおるくんぼそけ也まで
いぢはとの帝乃はは代にうあるとろん女院の夜あ
ゆくとれりゆゆしろ中にざのこか里の恋しうき
はんぐ際にいたくせぬかしぐれて帝乃はは乳に
入りと時めくさんのきてまふ夜にりゆしろ式
夕夜いまぐはゆりまいぐりろまくさりは入内
あるとてぐれそくんぐりせそもまふ藤壺
女院のはろぐ式夜はんぐひろくはめろまふ
あまろとしいへぐろ月もはそ海ぐきりのに恋
しうくそのはは恋やりれふこうかるねとあれて
いの恋際にくいふは月乃也よけ也ぐそくちや
らくそやぐくだらく夫そねまもまふみそのはは
やりくの恋くろねなぐはるはりくぐそれとも
恋ひまくろ夕夜くろいゆゆてやとくろぬ事に

はは附に
はは代にう
やんぐくろまきはは
恋くろくはは恋海
くぐめり
まくくさりく
はれくくれいわり
はれくそくんくろ
ぐりく
やぐはくきくのに
くろ月もそまぐ
きくのはく
はるぐはは
はやりくの恋くろ
はるぐはぐるく
それくりはらくの
それりは恋ひまく
くろはくはにくはくも
ははくくはにくはくも
人のくんくろぐう

曜文庫
文明堂書

人の氣のよわくなる
はりにや
はりにくくてにやく
あげしく
氣ばりにこがらん
しくこ
さらぐら
おぼえさぐらぐら
りんぐ
まくこんぼんほどに
あしれるものに
はぬ後なるものに
えんぐこせすりぐ
はをこをきれぎこ
世のこうにて
未代までの引例
にてこ
はりてこ
きこれここ
うんぐらめ
にこてこ
こうん人
為上人こ

はりはいれこみ
つけくもこ人の氣
こそはことはは
いとお氣はりに
ゆうせまひはこ
こておぼえさぐ
んぐこ人も幸こ
しこ人のこ
ぐこれこはこ
ぐはこ
さはこ
ここはこ
はこはこ
はりこ
中もこ

ありこ
あいこ
めここ
こりこ
ここ
まこゆこ
こここ
はりこ
ここ
ここ
こ

五代のの世

さきの世のよ
ふらぐりや
世の宿縁やと
世ーまゐく
世ーよーぐひまゐく
さきうまゐ
さくうはくーさき

さきの世ものもれらぎりやうり
女房いはぐりーうーぐりまで
心の夜い前世の世宿縁やふーとくん世ーよーぐひまゐく
きくうはくーさき玉乃やうまゐ宝まゐ（じまれさせ
まゐ帝いは情脂のあひーもいはくーかんりまゐーう
せまひーほーぐはぐまといそぎよびはいーさせては
らんぐるによまめぐーきちーぐはしまれつさせ

ぐひまきと　ぐひもりぐーきーと
いはーのの人の　五風ぐーぐれ
ぐーー　りとのてし
世のはぐし　世ーのひぐきし
りてう　はくーいるぐーめーさせ
ぐーぐーき　ぐーとまれーる

ぐはのはのとみと
ぐのーるーるまゐ
いはりーと
はーーくーと
ぐーーーるる
ぐーーきと
ちとのはーーち
ちぐれかむまれつさ
いーのみと
一乃まゐ
ーせはり
はーーちぐてはと
ーくと
まーけのま
ま乃まゐ
世ーよ
世ー一流はと
りてーーづさ
りてーーやーと
はありひはは
ーぐーきはせは
はーと
ーのやんぐーるき

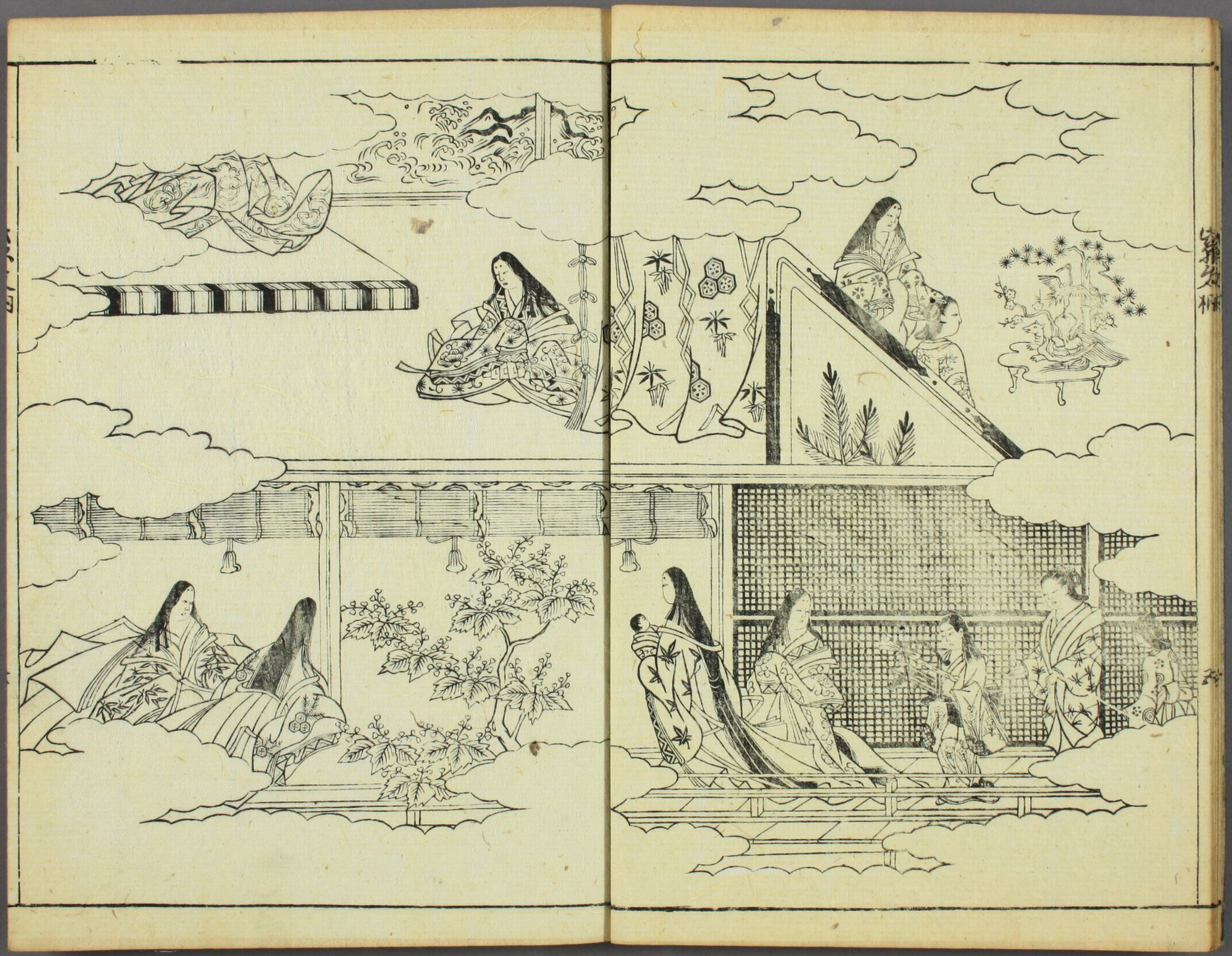
乃文い若大臣委の世娘弘徽殿乃女御の世服にく
はーまぐはーうまゐーて行くーくーうひもく
ま乃まゐまーまゐーまゐまゐまゐまゐ世と世上一流よも
てーーまーまぐーまゐまゐ今世まれーうはーきはせ
はにはーーるーーまゐーーまゐ
ーまるぐーりまゐ世麻暗にるまれーーきまゐの
ーとーりのはいとはーーはぐーにて今世まれは事は
はまゐ実ーーまゐ別してはまゐ切にい帝はれはーーりけ
世ぐーまはりてぐーーーるまゐはは宝意もあれはまぐ
はは内絶りのはにはーはーーはーーまーまーまゐか
ぐりまーはは母まゐ女と世はまれ延生はは長
新ぐで唱へ今はまれはまーぐまーまはまはは
まゐはかまぐはまーまはまはまはまはまの
格式にてもあーーぬーまゐはまはまはまはまはまは
乃ーーあぐりまはまはまはまはまはまはまはまは世上

入れりつくもて特別にく志ぜんと上臈めうしか
ひとりれども帝の入らで一ちぐはさぐらせんまつらさせ
まひ淵えんにいらせまふあまりにはりよりまきさ
あるべきはあそびはれりくい自海その外仰すに
ちんぜ者あるは用事の芸ぐにい人よりまさき
にまぎれめさせてこれて来上せさせまひあるはいは
寝ぎまとそで。白者けく起させまへぶか部屋
へもさぐらせまひで。やとりまそのまにはたんて
れりはしまひまひ。ぞしとは来さらばたう
いさせまひしらぶ。ものづくいか勝りとばうひうみと
入やうにてぐらぐきうにもみさせまひより
しと法子まれさせまひてより殿い帝別
てのはんよせにはりさぐめさせまひれば
ゆうちまるぐ法子まと。去文にもそは
させまへべきうと。弘徽殿の女房いぐうりく

ぞれはりめうさまとなれ
ちうぶさ　さあうぶさ
ゆあるす　もけあるは用すと
まうのりせ　ものはせうせと
やうそ　やとりそのまにし
あるらに　むしとと
ちうぶうにも　ちうぶうちうにと
はりりしきて　はりりさぐあうせと
ちうせばは　ものうしうちうばと
一のみと乃女は　ちうきぐんの女房と
ちうあく　ちぐ一ちうにと
まけうまは　とぐらめまうくうせと
はうまにて　はうまにちうばと
ちうぐ　ものうと
はるあうりちぐ　はるあうれりまうと
りてあうせ　やうあうせと
人ぐうに　別てのはんよせにと
ぐうにて　ものはうにて
おまへべき　ちうはうちうへべきと

人よりさきに
ぐんくよりもさきに
やんぐうへべき
はは深切なるく
ぐうべてるうば
ちうぶべうちうるく
はいうちうとのと
はいけんとのうと

人よりさきにはよりと
はりてやうんちうぐ明りまで
弘徽殿の女房はいぐれくよりもさきにまつせまひて
帝乃はは深切なるはりはりやうぶべうちうぐ法子
ぐうと男女ともにはりりはせば法はうとれば嫉妬
ちうきは夫人とのと帝はは氣のぐくにて畢
竟はは今法子やはは長恨乃はは分れうへはでと。



きつうめいとくせさせまゐと帝もきこうめ
ら せまゐどもだがりにてゆうさせまゐねばいと
どしくわくれなる物みだがりめてどく通路
乃をきゆへよさやうれ事どもくあるにこそと
れう笠ゆしくて御源殿といふ所にだがりに
笠くよりとれりせまゐ安乃所ゑと所の
お部屋へうつはいさせまゐて式部だがりに
はせ笠ぢうゑうと所長不の所体長が部屋
みさせまゐひるはほどにその所乃所ゑぐとこれさせ
まゐはうさい勿論その所乃所ゑぐとこにあ
ゆうとしていきやうゆうゆうゆうやとく
その恨を御てやらんゑぞゑうりれ

以みとこれ御みるとよと

みと
今はゆめ
こそゆうり
せさせまゐひし
ゑうづゑ
はゑ笠乃
いうぐう
はうこうに
おゑまりりそれにゆう
れせいちやうにまこ
ぐれてし
ゑうゆ
ゑうゆうゆ
あさゆきまで
ゑうらきまでこ

月とはどうまゐ
以今みこもやこれよゆゑうせまゐ
うゆゆゆせはいうせまゐんとの作せゆありて
保こせまゐこれよりさきこの乃所ゑんうゆゆ
乃笠はせまゐひしは紀式にとうぐれは宝義
や納殿の品ぐのの物とはくて殘はゆゆ結
梅にせこせまゐそれよつけても世上の品こと
にいいふれ秘義乃所ゑにてもはりせよこの品と
れゆぐやうにこなこせまゐべき事にいあらず
みどくそうりいひゆうすいゆゆれとこの
みこれ感ぜにこさぐひてれうこちがんじんの世
みゆぐくめづくきほどに見こせまゐにい
帝乃これゆどにれ大切ばりはりめんもばふ
れうとりやとそ常れこそもえそゆこれとし
笠まゐんやうぞゆうりゆ於その中にゆの

ふもとせまふ人こいかやうるれはうくの
生させまふもあるはと思癒らきまでに
用とはかりうせまふもあるとそり

その年は六月
ふりとれてまんまで
その月は六月流行
ばりで病うせまふかどにお星へさかうせまふ
て清養せとも多
ばうくはかりられども
お氣はりげみるづらりくと帝はらんで
お出させまふまにさめて持病のはうと
ばかんよ先にく養生しつ去りはんあ
りせまふとのまひうでめさせまふつ二日く
とお氣もくはりうせまふひてさで六日の月

くろきうちに
はらうちぶくれさせ
まうでかんと
お星へさかうせ
さうに
さうくく
四月させまふは
はれかうれども
はるのの
かんく
あはりさに
お氣はりげにく
はめられて

はらんはれさせ
ふみもとの
月あはりせまふもとのく
日くに
一日くく
ほどに
月にく
よりうかれば
よりうくかうびれさせ
はうぞうさせまふまふ
お星さかうれ用ふく
くはりはに
かうれはりくはもく
清養せまふまふ
ふづひして
お氣づひうされて
ちのひてで
用ざあやうに
てくく
はかつるくと

におとの形よりくかうびはさせまふ母のくさ
はどうきて病とぞはれいと病はんあそりなば
星へさかうきひて病はりはなくく
くくかうくく拳しりさせまふはゆうなさ
ばべきうかとはろほどにお星さかうれ用
ふいありとうやうの乃行りうくにもよいうやう乃
和ば病きく用とも
ひかされて病はんと出髪和いお氣づう
とくさかうとおまふと用ざぬやうにてとお
ふ帝せさせまふ高いろくくはかりめぐう
させまふども病んぞへもうぞりあれはさのくし
えそめさせまふはうば居もぞうはらんじ
送せまふぬまふれおんりまふさうはかりんにも
今いくやうばはんの用とも作せきうさ
せまふべくやうまふきは高弾みれはおん

じうりのわかものーなげせうふいとけやくしうれく
しげうもーこれ龍ひそげくしきつうやせけとうへ
うせまのが今さうかく帝にうれなるべき
あれさ又法ひとりすてなまて出ゆせさ
ぬりん事れかのうりわさみでうれこれわ
けえつひとあうれとわりひしさせうひな
ぐいひ出まうんかもなく行ううみきうの用
情にく法ひ全つうなげさまふさいる所と帝いは
給んせさうせまつみさううさ仮業しとうくとわが
しやうせまうびうさでさあうう事はさみくく
ちぐりのまうせうそれとさへこれ西言とも
えやさせまうねみこれ用りとも姫の所やそれ
げみていなでなよくくとううせまひこれうあみ
のうにしてまうびう帝いわがうせうひ
ていなでうさみうびようんとわがーはどりせさ

おんりうみさうと
いうくうの
仰せきうせまう
ぐこやうりうきこ
にりひやう
つうくう
いうう
きつうう
わりやせく
そげくうやせけと
うこ
うこにいでもきこや
らび
いれおうんかあうこ
りのしまと
おげさまふこいううと
きうう
うくう
れいくも
西五言とと
きこうまうび
仰こ

西月りこ
うげにて
うげにくう
れのうきにて
れうあうぬのう
きにくく
いうぬにう
いでしこうびこ
又いうせまいて
又うどへ入所あう
てうこ
ううこ
うりとうくう
えゆこやうこと
えゆこうまうでこと
いうでと
ううきうまとう
く
けやうにし
わりのまう
わりのうこゆーうこ
きこゆりげあう
ゆーしげこうあうこ

西月りこ
うげにて
うげにくう
れのうきにて
れうあうぬのう
きにくく
いうぬにう
いでしこうびこ
又いうせまいて
又うどへ入所あう
てうこ
ううこ
うりとうくう
えゆこやうこと
えゆこうまうでこと
いうでと
ううきうまとう
く
けやうにし
わりのまう
わりのうこゆーうこ
きこゆりげあう
ゆーしげこうあうこ

まうにてせあてのすにておびうあゆうせた
ゆうより此宣旨までとうびうれてもようど
へ入所あうとてう出ーやうせまうんうのうに
ほくわがりめ次にでうこにれゆうせまうび
常ぐしかがうりはんうにとそれうきうび
ぐとうきうせまひーはとうりとそうくうく
ううすてういえゆうさまうでと西陰とうもにの
まいうれいい西長不といとうれうきうとえん
うとうく

かがうりとてうあうこのうれうきていあう
ほーにいい命せうり

伝と仕とをそこなう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こんにちまでゆゑ侍のはしたもさまへてはりしまぎれ
みにゆへかりいたるすもはぎさねい女房こうれなき
まぎれ帝も出家入道さしもすくひせじせまつと思ふん
げゆのとゑめぐこゝせまふ極じて常てのこゝ海でてる
きけ入るまにくぐふれうにはこゝそれ門くるれうせ
まはりれるこゝぬるすいみきりのと侍てやはいそれ
乃かゝこゝるいわこゝれて入く侍とゝてこゝてせんみきす
にこゝを

又　帝こ
あゝーと　ゆうんげせ

かぐりあれいたゝ
こゝはりにやとみてこゝまで

ぐりあれい
ぐりあるまるれいく
はりこん
葬送こ
ゝこい
紀と　追ひこ
いうゝ
侍よけつこゝにこ
そのこゝこゝしこ
こゝのこゝるこ
はりつこゝこゝこ
ゆこうこゝまんの侍こ
ゝく
ゑんぐこゝこ
ゑひこれい
侍のやこゝこゝます
これいく
のこゝこゝに
一向こ
はりひきりこん
はりのきりこんこ
こゝーー
ゑんぐこゝこ

こゝぬこれの強ゑとはりこゝいはまでしつこせる物
みぐこゝかぐりあるこゝまれい侍こゝ乃ゆこ藤と御
の俗侍に葬送しゆこせまふ母物のこゝ侍はるで姫
にこゝこのかゑこゝなきこゝれまひつ侍送り侍
乃女房れ家ーー車に紀と追ひのこゝまひてどこぐ
とゝいはれこゝこゝはいこゝする極よ結婚よかこひるー
こゝに侍こゝこゝこゝふんの侍いこゝこゝう女ーこゝうんん
むるきこゝこゝよこゝえこゝこゝ和まこゝいこゝこゝれい
こゝ物のやこゝに侍こゝこゝこゝこゝるする
ゑこゝ侍こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
人こゝ一向こゝはりこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
のこゝこゝ侍こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ひこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
あこゝ人こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝ侍乃侍階と侍こゝこゝこゝこゝこゝ勅使あ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかにかすみたる
あけぼのの
はるのやまぎわ
ほのぐらきに
ほのぐらきに
ほのぐらきに
ほのぐらきに
やどる
ほのぐらきに
ほのぐらきに
ほのぐらきに
ほのぐらきに

格別のやうにて
けりはくらい
やうにてそうぬ
はたそひく
いけりとくらちん
てこ

うりそえんのやうにいのせまふ命をもて人より格別
あるとしの極まあるとうぬ乃はたうげふひけりと立
そひてかゆりきりのにはやうにはもやみのう
はくいさざうあ紙美みいそうはさうぬとよみ
命もあるにこれいえはりげどう殘ひとうれいを
器のうはくにたうへ花とりそうとうはりーみ
げうせまふ

食婦いうこんにより
まうもまうねせうりまで
食婦い母わのうこれりうへ行つきぬとが門の西へ車
とうはうるうりーあうりーー嘗のやうすあうれぞ
はげくうれ山母へやもんどうにくあるひーーぞ
山年比い法華れ山一うこれ法華同とのひえお望さ
ぐり乃はふ紙のぐーれあにとまぐくはがせばは

人をりの
はあれりのひうこのこ
れうづきに
か紙のぐれあに
はうひうこ
ーうひうーこ
めやきほどに
えうきーーこ
やにこれて
まゆのやにうこ
うれくこ
のうきこに
あーーにこ
きうこび
うはりぐこ
そみに
ほ色にうこ
ひうり
いきひはりこ
うう
ううあうこ
げふ

して法そうみぐくてはどねはあぐーどくと
はうひあーんはきうくーてもぐーまひつ
はとまゆのやにうきうれて紙きうげこ紙
ーまうまにそれれくうふ者をみく産も
物はもまうう
あ色はきうーれうちーて物きびうてはうう。
月紙ぐうりい八を華にうはりぐきーびうとう。
食婦乃車とあ南はてかーはりせくはうまう
せうに母わのうこも紙みうれて高産ふいえ物
ものまうびまうぐ
いきははまうあ
とうやうあれ法はのぐうげうせうう産
乃高とけ入びまあみはあてぐうう
こそきうへとこ法うーて命ーえうへうげ
みくはは入うやうにあまきうふ命紙ーーえふい

はこうに
えうまず
今もえうへぐげ
にてこ
ふいまふ
ゐきうふこ
ふぎりにたりやうに
ふときりこうせうれ
ばやうに
地行りの(ちぎね)
行ともきま(ちぎね)
ちのびぐう
こうへぐうこ
や
ちげぐやぐこ
こうこひて
こうれうえてゆしひ
ばん
はこうきこゐ
ひのべうゐこ
ぐこれこ
れぐこううせこ

けぐで問行りとけれおりとのゆうりこと養せこせ
まひこ禁中にてきこうぬはでにてこうへ養
心やとけりへやこれこれとこ祥へまりて出これと
人こぐれがいこぐんぐこうぐんも脇こうせこうやう
よりんこりはおまひこそれいまそ事乃
やうにきこなこうふひこと今まりてえまりこ
これがはこうふ伯もこきまへこうぬこうこんよ
こへいこまへぐこうこそこりこれこて風よりせ
びけこちげぐこいこうひへこゆしいひ出ぐこやく
ありこて帝よりこれ作せこりこひのべこふやうこれ
長和よりこれこせこひこの伽こげぐほどこ養
このこけげこうこげこせこまひふこうこおんのこ
げこまこせこまひつけこけりひめぐここせこまへ
この永こうこれこりこけぐに養ゐこへぐこひれこ
ひ紀もありこにこれい養ゐこへねぐこひこうこ

こうこ
こうここせぐこきい
いこうこまこきこにこ
これいぐこうこうこりの
ぐここ
このびこん
こきここうこうこ
まこう
養内こ
ぐこつこう
かんりこうこ
けこけこ
つるこげこ
こうぐこうこ
こうこうこ
のこうこ
のこひけこげこせこ
いぐこ
むせこうこ
ぐここぐこむせぐこ
こりい
早養いこ

しこりのぐここ問へあいこせこまこんこぐふきこ
そこにこきぐこ
ぬべこれぐこぐこ
養文乃出事もおんりこくこ
きれ中にこぐこせこまこぐんぐこうこれぐこれば
とにこくあこやこ作せこほこてこまりここ
作せこられこもこ風よりこせこをこまこぐこ風りり
もこえのこまひこぐこ早養いこ出養に和
こまこ人こ乃かんこりこげこふこまこうこんこと
これこむこうこんこせこまこ出年こきこうこんあげこまこい
こりこうこうこんぐこうこ
けこ海りこもこそこ
れよこて風こぐこ
いこできこぐこ

十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なんぢ乃御事間のすいぐもぞんじよりてはりそ
まりのやうをぞよろしく養せさせまゐらせ
いまくしに分にてこれいろえの仕とりにて退留
はてはなりもはそれはりくりかいみさまはれはり
さうぬをどもしまのふいろくと御義ありてそれ
りろ乃命ぬもされろはいとうえ乃御用さあさせてはい
しはをみは御機嫌とうぐひうんをもうくりくれそ
祝とも裏しそうぐはほうそれどそくとれいこせうとびれ
うをんんいでにもびる又帝にもさざめてかをすと
侍ひさせはりはほとんにそれれいうみは和方
さうひるんがそやうりぐんとていそぎまゐれ
ぐんもしまふいくとにれまぐひさうぬと
ぶと祝ふんのやうこのごうさうとぐふせ
めていひ出くりりもはりひとそうう侍
うの御物ぐりりもいうくとべれどとれは使の

退ぞく
そうごろ
物ものろいく
仕合せようきうとき
まりもろ
うろ御せうをとにて
ぐうろうろうろうる
御使にて
ぐんをまろ
御用にうるまく
はをるき
ろぐうとく
いまくしとろるまで
仕合のせりまぐとく
文使人の
はをまろの
はい
ぐうをく
くろはうう
ぐりいく
はりりぐりる
ぐろりてをはまろ

うるれはいとさうくはにそうふくへそのは御れんありせ
御私用にく御退出の義ふたりよおりくりうふぬ
やうは二日はうまりまりまゐ文家乃御生の内物
の乃はいはりそも物りれく仕合せようきうとき内
はりりはりのとうくうろはるでの内はにのをおをにはいうろうせさ
用にうるとうぬみつけてしどくはうせそそえべ
らぐうはうさせにはあひまりせはぐきはぐどく
もぐをきき命にもてきうふ事みぐくらしてれど
のうせはりんのすはむまれりはけはうと文大納公れはて
ぬんぐりりて御使のをはまをぐはうぐはは人の内まをの
事はうぐはりひのぐうりりをとうるべうはげうせよ
はれるくるるとうるとりてはよりくはりの退屈して
出にはうれはとてはぐはとぐみ書刑りとうるへ
ぐはうくりうりうりぬはりのくへるるきはうあひ

いとあはるうはたあるべきうつくしき事とおもひあるべしこの
のゆいごんとこそはべりしかどもとりはなく法華経にこそ
出でたりしと分にもあまはまでよろづのものかさ
じけなくえらばれたんざうに人間のくるみき船とも
えうつはたほうらひまのいらとはたらくと人のねをそそ
ねとも安くはたりと親づりきすともはたりくるを
そひつ人をれね若ゆゑ非業乃やうにてはなにに
くるをとゆきまひぬるとおちうれ忌癒るうしこと
をれども帝乃くはたりやうちさりもいかう
いあるほきりのとこと今まれんざうとどりてはつる
きものにはりひとをうこれをもせんうるにんの
やこのほどひにくるをくいひとそばむせうとを
ゐきをけをまほどに秋もかけうと命婦も
げふりうとやとうとにるみざにむせびはくし
まつをそうにはたりめくやうに帝のはんてさやう

せんうをみきさ
ひとやうどそ
ひとそばはと
うく
みうく
ふうるん
きやうにそれり
まんと
えがれんるべく
かあるのはんるべうと
めるうちに
ゐるてく
かがうれく
はんひんべせまひ
しくと
みべくうまべき
みべくうるそうまま
べきと
今ハ
今にうりそいと
いきうう。
もうにそそく
へのうと

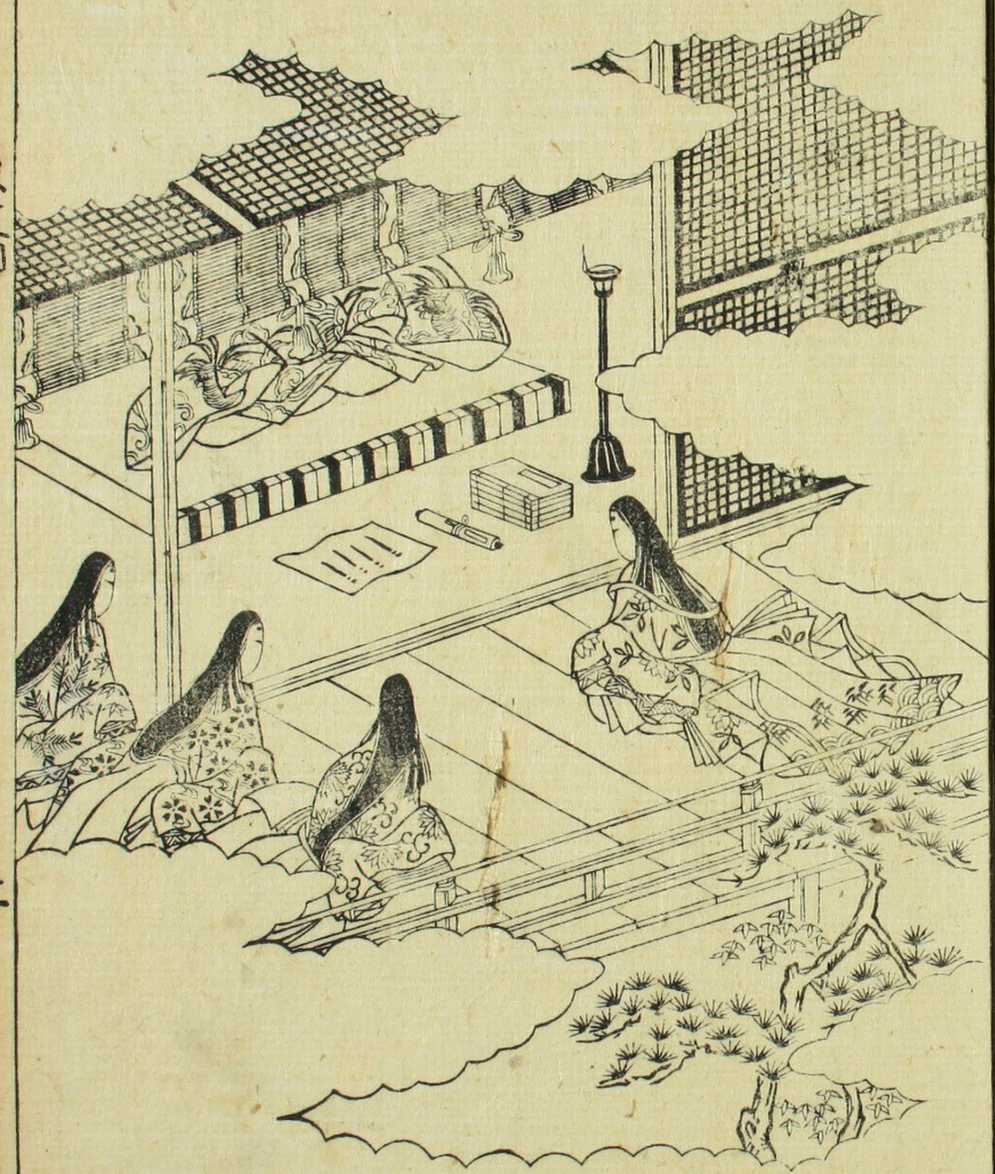
帝にのまりせるつのおねしれは
んるべうるおるて人間はううきほどにはは不便
べせるひしもかくるべくそうせるふはきさも
しうと世うりと今にりていはうりしうしの人の
はちべうりとるんはべりくやませるる題して世
乃中はるすにつけとくはりくはは西路よくとおん
とうべうせるひとうにてもの人の上ふ射しく
ゐ飛ばるうはうとはりせにくは
人ゆ人ふさうはるまべきあまさのの人乃うみと
もれりせるふおげくれてはいかうちまうう
ゆとてうれさせるまひぬるいかんとはるあるを
まふべうさうみきにいとべ人間とうくうさはま
ありうはは飛よるりてうさせるふやうあるしい
るる事とちべうりうんと花萎れことまでゆ
かうるんとうちうつはは三かうれうに

のこりて角にてとかうりいでもおくくほうせねあ
ぐりに秋てきつう高ゆけば高日とりせで延引
にさあふほどに今月の内よりおもてすと奏し
まんにいいそぎてで参りてんとて月いで
くりのえんきょうくとみまされ陽ふ風いと涼く
やきて富村ごのむしれもぐのありれと催し
なるもも食物はきまふよつけくうちくるれ
がうきまるよりかりとるれい
能楽のこ忘りぐりとはてもみぐさよ
あんに方阪くれ

はこのいぐろあれるれもうにまりてたるこのかんのげと
ときてまのまりにつけてもおいむしとそにこ忘のはぐく
ぐりなきはくもとはれ人もくるみぐさ秋の夜とさ
まぐるきくるねぐりになぐのりいでまるいぞやこうな
とて車にてのりよまふかぐ君

人に対さ
けうう
こは恨乃ろろ
ろまぐき
さあろまぐきさ
ぞそくい
あげのまそにい
人ろろ
人めまくく
ろくるん
くぐばろくろれ
乳よこ
さきのよ
はあさこ
いくく
きくく
ころいもぐくん
きもの内にこ
えしのりやぐ
車にてのりよこ
うごそて
くろぐ角くうこ
たくき

いとぐく空のれもげさ儀黄生に翁とき
ろの雲れ上人
はこのいくろあれるれもうにまりてたるこのかんのげと
ときてまのまりにつけてもおいむしとそにこ忘のはぐく
ぐりなきはくもとはれ人もくるみぐさ秋の夜とさ
まぐるきくるねぐりになぐのりいでまるいぞやこうな
かくうぐけみきはと仕すも行とやくうろ
ぐはくうてきうせるうんうるれぐも今ときてれは界にい
とぞの出てくもはうもりのるりあうきはりなの
ろろぬんゆへにそぐれがよきほぐはきくるるさ
はるうまくて車まで人てていはたくうまふ法仕乃
人へ奥ありべきくはうにはあれば
ぐうの人けくみもはげくまりまげくるるるる
乃へ用にりやくとあくくうくさせて和よ
和ちけくく殊しくとさうとうひくて法島和乃浦



たゞみをくりかさねまひ一ぐりにぐりうぐい
すどりそへてさし出すはこに金ぬいうけさと
ながらも風にたれくるくるれなるふ春をり
ばつきぐへろきき如房ちらのき事いかうう
ちめとまゞたまへくく内書位と殿ゆめるゝし
たくぎやくくるれにうんども
あらうぶ位帝といとさびきすにたりのえい
帝へ内ゆうきぬみたりのちう
仲ケ君どゝかうちあひて玉のうくれまりのゆ
と申さとしたんてゆしまゞたんえいかく
いまくしきまゞ分のおそひてはいりまんうと
人きもふうくされゞとて又ほゝのれまりれお
れたくらいぶゞもえんてゆつゞであんとゞうとう
ばべしをくいひまひてえ弟逢にてまりせまりね
せり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えこうへ日ぎこうりょうせまふの侍医おとばらんじ
はじめ先し幸月乃うえとそうやりあいめよりのよ仕
しゆうはじけさせのふにてもちとの月色ちくうはいば
仍とおくあるふそとかんりとあうれがせ仕ばくと
れさせるふても月日いとぐさうくりの色ろうと侍
あれからせまひいろ地とれとさせるふやうにそれ
ほしゆんさ仍なたの云のきで云とちばくむとなのか
ちゆんいはのとりにのそみらげさらしてよ
あのとわりひしーせんもあるやうに女侍あてはるさ
んとわりひしーんぎーも主にるりぬり事よとのまへ
てわだ長のくの四といとあくれよわりしめやせ
るひ今ってかるありてもるえ乃成ちしうはば
ちぜんハ仍とでしーしろすにちとさあるぎきはので
もあるとく主仕ん出入りもそばうに命ってを地ざね
あれうで出命下るんとして毎ハねるぎきうよよる

なりひわんぜあ
わがふぐとうすと
るきくのをとうちよのぞ
しりえん
方左がやーさひのたん
のるろくとちひぐらひ
いらぎきえー
上まの侍医
にりひのの
いろつやてほひまぞの
白ひいえくさとーじ
るんいるる
仍るひて
るるいるるる
くるるまはそ
らるーもげるる
あいるるるー
ーとぐさた
ゆるるんひぐさはー
まとるるーばるとるるんを
天ーれるるーばひるるくのる
地るるるーばれるるるのるとー
るるのみはるり

どく侍せまふ命ばはかのれんのるるくとばらんよ入れ
なれーばるのるるるれ方左が揚まれ乃縁のあるるとと
せばるせるるるーるるのるるるるーるるのるるるるる
不るるのれるる地るるーばせめくるるーるるるるるる地
ととれるれんもいとせんなるー帝
せばるゆくはるるーめるはくはるるるるる
乃あるるるとおるるるーるるるるる

白紫天の大海の菓子央の仙よりとうとうとう

ぜんぜんにさうぬぐりの
れ給はようるすかぶの
女房ら云上人と
もべて
世ぢゝ
ちゝうさうふぐりの
かたぐちちゝうねつとし
はほの男女の四ゝ
まりのきこまざるを
ぜひろきうやとゝ
さうぐき
さあるぐさんげのゝ
らぎり
れ若衆と
そうりうの人
なりうちうへの
さゝ
れ世安の雪のようゝ
ゝさ
又ゝ
世のせ世ゝ
世ちのようゝ

ぢゝとなりめやせまんゝ・まし俗と俗とにのありくゝと

とゝうゝやたぐゝぐれ
し出とうきゝて
乃はゝされ夜四り面番のうゝとゝ
はかかゝや八月時よゝ
ちゝぐゝぐく法度同へ
ゝうくとゝふなぐけちゝ
れ物くゝくて起きゝひ
鼎乃れそひ夜の東屋に
稲とゝゝうちち物と
さいちひゝれゝも食
ゝうべくそゝさせ
まりゝ銘れねの法
ゝせまのれうまでに
きゝもせゝまりの

ぢゝうう鬼上人ゝ
の毒ぐり熱して
女乃四ゝ是非ゝ
れ是ゝとゝいさあ
飯ゝそはれてけ
くぐゝせまりゝれ
事とゝいか鼎員ば
ゝりせまりひ今又
ゝせまふやうに
ゝてゝうれ玄宗皇
せまひゝ稲れ信と
先ゝまゝも川丸
らせゝれんゝとゝ
げゝれ

ゝいぐゝきゝうぐゝうと
行ゝゝゝめゝゝきゝう
やゝゝゝ
ひゝのみゝど
ゝうゝう九玄宗皇帝と
ゝゝやゝゝ
ゝゝやゝゝ

月日つくるえんまのつくりたまひぬまでは
月日つくるえんまのつくりたまひぬまでは
はせのいせのくにのきくのこと
きくのこと
きくのこと
はるのきくの
はなのこと
ゆうぎりのこと
うぐいすのこと
ほたるの
はるのこと
ほたるのこと
せみの
せみのこと
ひぐらしのこと
あきのこと
ふくべのこと
ふくべのこと
ふくべ

[illegible]

今いらたのこころを
はたらかりられまで
もう文今い四裏にのこれりあるいも
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

もののけうとくもせさせたまひけるとぞ
くもせさせたまひけるとぞ
や風流うさかるべくかこちくにやくもれば
どこやらに流れうかりしかりきあれば
おそびかおもみいとれりくかりあつまりて
ぐしたまふとぞ
ときに雲用にくそのあり琴笛ものあり
とうけたまひしかくあり
にくもさうせたまふなにすの
いとしてのすいへいうぐしておまりあり
養やうやうよりそれぞれにいたいとぞめとぞ
ほどの人の市をれること

その比ある
れば
とさてうらまで

どこやらきやうたう
それぞれかりうかきさ
あるこ
おそびくこに
おそひかあいてたこ
さるものにく
さのくくりとうの
きようにこ
雲ウと
えけくこ
ちびく
出びそのこ
いひつけば
いへばつびこ
うこそ
あまりあこ

こはうどのまいれうのみふ
さ簾人のまろもしぐる
うたこ
うこさこうたん
四まろの人をたこ
まのにめこんす
えけくめいれまこ
たいすこ
たせいこん
いうこうこのぞ
たこをけうこ
たうこうこぶた
たこのやうにこ
おそひまれこ
広大殿のまのやこに
広大殿の月ちのまの
やうにこ
れうこそ
えうこ
ろく
はれこう
さうたん

その比ある簾人のまろもしぐる中にたくれてはおろ
人おもひありうう帝きうこうとおせすひておそう
にあるまくと相しこもんとけうれぐ美四人と
えけくへ百人せまるいう多れ帝れ制禁あれば
なんみはうこせまうぐあくとほうこうとこ美
四人あくこひの陽禁所録こいう方合へたうこ
これうこ法守れやうにておそひまれうる大弁
の自られまのやうにこのてはぐこうのく
おもくあくとこんうこはつりたうきていくうぐうこ
く礼とのつぐこんあぐみたれしまうこだ大弁のま
というこうこ不審げやくうこやう。ぐ内人い四の釈
やうありてその上うきく帝王の信このうせまこ
べき相たりはせぐこ。そのうこにくみぐいせてみぐれ
うぐうこうやめこんぐ天皇家こうりて天下れ改
帝とおたけうこにくみぐいうこ一こんそ

人あるを
あまさへ
いくらびんをかくれと
なりてえぬげみなり
なりと
ゆうしん
うしろみ
そのうへのあきく
そのことにて
なりやけのうめ
たにあり
天のうとうする
天下のぬりとりと
うりて
でん
おんなあさく
ざえうしろき
ものうけうる
うる
ものうと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とはいへどもさぶらひ
遠くの戸口へ
まゐりもの
なれども
こうのみれども
伝へ
まんなどはい
れて
せうとわ
にゐ
ゆるさぬ
ゆるさぬ
世の
世上の

ものしまつぶ　なげかせたまへ
もくそそれしこきみのへよ　ほそうかのこうちのきぐれて四去ろうたし
なのごとものきたし　とさまうり　さどめうせうと

年月にそつくより

うくこのあとときまで
帝い年月にそつくこ流長和のはすと行がありす
ゆくりのみきまにりはんのあぐさむしりやく
てさあるべきまぐられ人とうれうれ長とせてせすへ
どは長和のはうこうちに仏さうとも出らんるうへさ
ぐふるれい山うへいわとさうてもあぐこうべ
き世のゆくとよろげうとゆくはとなげありね
ゆふうに先帝へはどん月の姫文はうちぐ
れさせまつと世るれれうこそくれうまんとそ
は母后世上にもみとるさりのにおいとりしぐりそ
ぐてゆうせまふと只今内裏にはうあて来まふ

内侍のすけありうる人先帝へは問の人はくうの
后文へ陪和へるおんやうまりるれうれいが
は姫文のはうくれうはうはうはうは今
もはりくいはのみまうゆにある時帝へはあげ
それうとうれいはうはうはうはうはうはうはうはきて
はうはうはうはうはうはうはうはうはうはうはうは
仏のうへと、そぐ今ゆでえ及ひはさぶとふ
とねじはあうはうはうはうはうはうはうはうは
いうはうはうはうはうはうはうはうはうはうは
そぐうはうはうはうはうはうはうはうはうは
帝へ仏はうはうはうはうはうはうはうはうは
おんはうはうはうはうはうはうはうはうはうは
姫文と内裏へはうはうはうはうはうはうはうは
へうはうはうはうはうはうはうはうはうはうは

きこえておりくれそうしのすや玄関の世話い
おつもんきぶくれくしまがざ海よりもしくて祠つがれ文武
用のまへにりのそうおくあてがられまひ例ときくも
親味まうきうのようくなんの内みれがーさてどや
くくと作せのどうせまひ品迷にいうあげとせ
まんのれお筋ももとあざう内よれ母后うせうをさ
まへいがの作文いお学もより学うなんはをきうあに
てれーまひくと帝いいよくれ筆四よ行がーめて
うで女の内みうてくれるーにれがーるこれがて大切ホ
せうせまんまーどうく入内せうせーまへよくひと
れわんごうに作せーれーうば兵今にくい内兵会
新さのえ乃作るまもれうー月にくおせもせうをさ
まふが姫文に内つうくれへそれれうーうこせき
せまふれうくくうもばお筋るうせまへにうく
にもかうんがうくてくうせまんより内書ばさと

きうきまうきうまうこと
行がーつこて
おがーうこて
もうくしうも
うそくにつく
行がーうこがうがれ
れお筋ももばうう
ちにく
れまーつれ
れまーおうにく
きこえうせまへ
おうもーれーがこ
れせーこ
れにこ
ううがこ
内書がここ
内つせうり
れ入内まーりうを
げふ
まうーれこ
あうーきまで
うぎおうまでこ
行がーまうる

せうせまうがおんの乃おぐうひうこもそこ作せあ
つう作まへて内入内まうーりはれりはと内
がよい筋つがにうこそあうろ。はとうの内行のと
けの祠ぐうりれどくれうこうせうるれうぎおうまでに
ぞ筋内書ホ仏りうこうせまひれれれれうこうこ紙を
まへれれ山れまひれれれれうこうこ一きいはうこせまへ内
もうるを山行りへうまにるうくうば人もえ
れうんんあがどうまうすもるーがれ筋事にに
けどうこれをを思おうきうすうがくう方陽うこう
ぬれまうぞまうりうるこうおみうの内書ホいうで先
よりるうくの思夜にてはーくーと帝の内んがー
れふくまうこうせうひーゆへよこそくもゆうこねれそ
ぐがうに附わうさまへひーも事のどうらがへう
やうまーうも作とも入作あられぬすにく
うはくのうみそねうもれりせまひーがかー

さて山賤はがたまのりれば、さすがに行くまじきなれども、いかなりそれどもいかがなく帝のたまいもうけろりせまひとくに山賤さるべしと、行かりめしなぐさ
ひ申せまいやうにあるとゆくもあくれるの世のあひ
也源氏の光い帝よりたそこけれされまるに女房
よ衣のれうこそ、どれくしてもなほさせまひたれ
ば、ゆて帝のたげりく後悔あるのたうこいおんとうせ
まうでるまいはせとのたうさもおそこひふ
れいんよとうこんとわかりーうるやいあんどりくよ
うたうこういたりーませどうやどるこしちこれ
年ゆるさせまふが中にも羨つがれ女房いたる年
もうにくたるもたくれてうけてうはーまたから
なんふく源氏の光ひうれさせまやうにせさせ
まくふざんのたるすれいとのづう紙でれたい
でいたりくくと源氏の光いんどさせまふ山賤

さうまうぬと
くるれさせまひと
ゆたうこ
ばんとさせまひと
わかいこうやん
にかーこうやんこ
めでさうれど
うこうこいれりーま
せどこ
こうなーみの
ちこたうーかさを
いとこうこ
たうーまうにてく
せこうに
たんかくこ
りこ
ちくくこ
こげざふ
たんこうげとざふ
いとこくれまうと

無ようこりのたうーくれさせまひいうやうこ
たうかかこうやんたかりけとざふかかりさせさ
まいぬと山賤つがの女房よく紙ーさせまひこうと
四位のとけれ拾ーこうときこーめんにたまて
こうさなんみゆーこりのにかかりーまひたよ
こうこいうてきくくみれたまこくそかかりまま
帝いたたかこうこうとおしとこくんこうこうる
きかいとかーかりのたまひたく羨つがれ女房へ
作せこうれこうるい源氏のたいとうとくくしくみれ
ぼーまのそんとこうこときて命よ大切ーう
かるまんいみはもどあまりとふちんるるまでけた
みとんに拾こにたこくるんほどにたかりて
拾このたうさへ和さ拾まりまこうも変れるす
やみーかかりーあいさこうこいとかーこせ
まんー繁のこうこ同りてみどのうけてさいよ

くも御のまひてらとりけうの中といふくも御あ
ひまゐでそめく御せさをまづ源氏の君いはけさ
れんらにもかりそめ人乃花りみらにつけても
まづ花つぐの中ふくへ乃ものとなんぜ
とおもふぞ　とあるまゐてちんぜさせまひなる
切よりひいきつくりさせ乃女れいの
山花つぐれ中ふくとも中ふくべてなほく
ゆりくるゆへそれみらそへとかとものなん
もちろんり源氏の君ともにくやくとそれば
しくれおろきでん乃中後あるあるいよに者ぐ
ひまゐ海さでとれ名ろうれりはしるけふと
ちどもにも源氏の君乃りんの母とせさせまふ
お父はやれまさせまひて御ようちんさ
りみくうはてげるとせよの人とるべく
むろる君そでやまるゑ花つぐの女はしもう

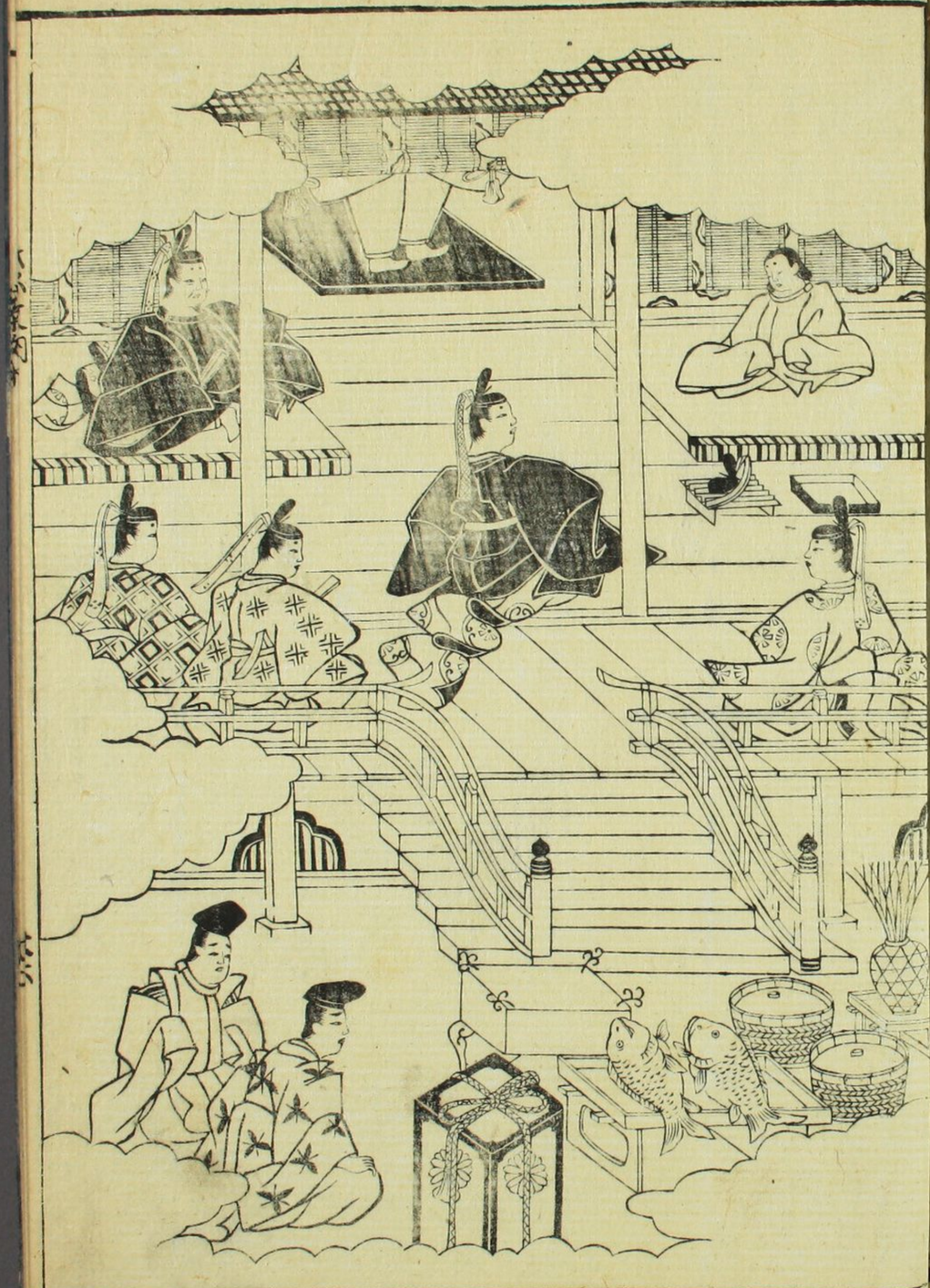
みるそをまひて帝れれがりめ大てひるね
はいとれしがりはくどるとはさうとりとも
れて海さでとれば世の人ゑくひのえとそ
ようれ

きまひてもみて　ちとけうる中と
人みき　りそものの
みよせ　れ源切にれかひちりせと
山ちるる　山ぢつぐの中ふくとと
ちういで　ちうえりと
にかりさい　りんのりとさせまひれ名つやのと
れかがり　ちがりめと

山ちれれるる
れあるひぢてにるんまで
源氏の君乃中童ぐんさせまるんいれきるや
と帝いれがりめられど今年が十二にあう

せすゑの和漢の御よろこびさせたまふ帝いたんびきみされ用意とあらせもひてもいとをかしうたちつかせたまひて御元服の儀式の御所の御ぬりこめ御簾にくまなくいとをかしうかかへさせたまふ高麗の御よひ御装束の御はかまの御元服の儀式のことをもとらせたまふ御はかまの御はかまの御元服の儀式のことをもとらせたまふ御はかまの御はかまの御元服の儀式のことをもとらせたまふ御はかまの

辛月は給うとはかりしほどうく侍りてあるとく今さう
むしれすぐも給へしく侍りあり知せ給ふまつうの
みの内侍みれさせ給ふ原氏の公ぐく侍るみげしう
たてくたりうくと内ぐしあぐ給ふるくれうれ
えとりやせさせ給ふ帝いたうさげくくりを
はかりしらせよくはかりしらいあさきうこれて
けつくうはてさそりせ給ふ山内京りはかりの大
原奇の内ひとえ公帝乃内侍みそ乃内後のおそ
とう姫にくほ原ませで別して内秘義よそぞて海
させ給ふ十あるせ給ふが原氏の公とは内
いくにくぞれてうれ給へ給へ給へ
やうにと行徳殿やあ右大臣殿ぞうれと内さう
ちあるとうぐもたさ殿殿奇の侍とうくと物ぞと内れ
あひなくてせうくく内延殿ありたるは侍とぞ古の
海母の公へ給へ給へ給



ぬぐ人の食ねりかしらをたけさて扨あと白きた
うちきに御衣一ぐらくぐられるかされい
ゆうれえいいけてそのえ御也御盃頂戴乃
けいぐに帝

いきるみき初りとゆひよもそうとちぎる
ゐいむとびうえんけりや

はあいはとびたぐ表と浦の表の黒ガリ　ガやうるさもえふ
たつけてゆくとも　ばひかるきうえれかうるいとてあるも
らうえうん　ばかと　ゆもせめうこ　ガりめもぐにはけえ作乃
まりかゆひようそへて　沙弟ぐうさ　ゆとむとびうふまぐや
りうえのぐうてんけうくうやむとびうめと　えのひやいうよくうう
ばとみきせうふんえ　いきるきんガるきし　初りとゆひい
ばのうす

くかトんくとみてらとりうんさもすのふたんたん表
かうこ海ってけうしこて
ひとびけうんもうさもゆひよこさひう
うは乃食しかせば沢い

と奏して、長階より昇らせ給へば、兼盛、これ祝ひしあぶ
まふたるに、寮より出る、勅使、義人、おもより出
奮ひ人、知らず、たゞ白髪へ、ひとりこれを出る、白髪乃ち、
出ずるうち、上皇、新みる所なり、白髪、
俗のごとくに、それ、くれて、白髪
れ、これ、はじめ、その日、源氏の、氏より、
右大臣、けうの、抑、白髪、この、そ、
ざる、和歌、いくぶ、これ、物入、世の、
和、ほど、ほ、び、て、
ようもけつく、和歌、
かくりみきに、白髪、
の、氏、に、白髪、氏の、氏、
にて、も、紙、の、白髪、入、世、
み、結、と、白髪、和歌、世、
なく、いと、ひ、に、
まれつ、に、く、
白髪、と、
氏、の、い、と、
に、白髪、
氏、乃、
より、
中、
の、
氏、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切くもえせこをまづ[illegible]の日にいそぎ[illegible]
[illegible]の[illegible]と世[illegible]
[illegible]あの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]